

V. その他

- 1) 山田哲史, 原 太一, 仲川真由, 漆原康子, 田川雅子, 村上仁彦, 藤永周一郎. アセトアミノフェンに対するDLST陽性が判明した難治性尿管間質性腎炎の14歳男児例. 日小児腎不全会誌 2014; 34: 125-7.
- 2) 藤本義隆, 小川 潔, 河内文江, 菅本健司¹⁾, 菱谷隆¹⁾, 星野健司, 村松宏一¹⁾, 篠原 玄¹⁾, 野村耕司¹⁾ (¹⁾埼玉県立小児医療センター), 井田博幸. 孤立性両側肺静脈狭窄の1乳児例. 日小児循環器会誌 2014; 30(3): 343-9.

皮膚科学講座

教授：中川 秀己	アトピー性皮膚炎, 乾癬, 色素異常症
教授：石地 尚興 (定員外)	皮膚リンパ腫, ヒト乳頭腫ウイルス感染症, 皮膚アレルギー学
准教授：太田 有史	神経線維腫症
准教授：朝比奈照彦	乾癬, アトピー性皮膚炎
准教授：川瀬 正昭	ヒト乳頭腫ウイルス感染症
准教授：梅澤 慶紀	乾癬, 膿疱症
講師：伊藤 寿啓	乾癬, 光線療法
講師：延山 嘉眞	皮膚悪性腫瘍
講師：伊東 慶悟	皮膚病理
講師：築場 広一	膠原病, 乾癬
講師：伊藤 宗成	皮膚悪性腫瘍, 再生医学

教育・研究概要

I. 乾癬

乾癬は慢性に経過する炎症性角化症であり、本邦に30~40万人程度の患者が存在すると推定されている。中等症の患者においても、QOLが著しく障害される場合もあるため、皮疹とともに患者のQOLに配慮し治療を選択する必要がある。当院では、乾癬患者のQOLの評価のために、我々が作成した乾癬特異的QOL評価尺度であるPsoriasis Disability Index (PDI)の日本語版や、乾癬と労働生産性に関する調査(WPAI)などを活用し、皮疹だけでなくQOLの向上に役立てている。乾癬の治療法の種類は皮膚疾患の中では種類が多く、その選択は重症度、患者QOL、安全性などを考慮し選択される。当院では、一般的に行われる外用療法(ステロイド、活性型ビタミンD3)、内服療法(シクロスポリン、エトレチナート)を始め、全身照射型のnarrow-band UB、部分照射型の308nm excimer lampを設置している。また、生物学的製剤も抗TNF α 製剤(インフリキシマブ、アダリムマブ)、抗IL-12/23p40抗体(ウステクヌマブ)、抗IL-17抗体(セクキヌマブ)の治療も行っており、個々の患者に合わせた治療法を選択している。乾癬は、慢性扁桃炎、肥満、高脂血症などの合併症を併発することも多いため、皮疹だけでなく、これらの合併症に対する治療や生活指導も行っている。また、種々の乾癬治療の新薬の臨床試験も同時に行っている。

II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の発症にはバリア機能異常の側面、アレルギー・免疫異常の側面、心理社会的側面など複数の要因が関与している。当科ではバリア機能異常に対する対応として保湿剤の使用を勧めている。また、アレルギー的側面については、血液検査を中心にアレルゲンの同定を行っている。更に Th2 に偏りがちなアレルギー炎症の状態を評価するために TARC や IL-31 などのケモカイン、サイトカインの測定を行い、病勢の把握につとめている。心理社会的側面については、アトピー性皮膚炎患者の QOL は種々の程度に障害されていることが明らかになっている。本年度は睡眠障害のレベルとアトピー性皮膚炎の重症度と間に相関があることを質問票を用いて明らかにした。治療については EBM に則った外用・内服療法といった標準的治療を基本に、重症患者にはシクロスポリン MEPC 内服療法などを行っている。精神的ストレスなどの心理社会的側面が強い場合は個別に対応し、漢方療法を希望する患者には、メンタルケアや漢方療法に精通した医師が対応している。また、新しい治療法として IL-31 をターゲットとした抗体治療の臨床試験を行った。現在アトピー性皮膚炎に対する入院治療プログラムを作成中である。

III. 皮膚悪性腫瘍

当科では皮膚悪性腫瘍、軟部悪性腫瘍全般を扱っている。内訳は悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、隆起性皮膚線維肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍など多彩にわたっており、国内でも屈指の症例数がある。治療方針は皮膚悪性腫瘍ガイドライン、皮膚悪性腫瘍取り扱い規約に基づき、患者や家族に詳細なインフォームドコンセントを用いた説明を行ったのちに治療方針を決めている。皮膚悪性腫瘍の中には生命予後にかかわる疾患も含まれているため、十分な時間をかけて患者や家族が納得するまで説明するよう心がけており、患者と家族の当科での治療満足度は非常に高いものと自負している。

色素性病変の良性・悪性の鑑別にはダーモスコピーが有用で、色素性病変症例では全例でダーモスコピー検査を実施している。また、悪性黒色腫を中心に RI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検も積極的に行っており、ほぼ 100% の同定率である。これにより不必要な拡大手術を省けるだけでなく、正しいリンパ流の把握につながり、肘や膝窩など interval node の発見につながり、微小転移の早

期発見にもつながっている。また、乳房外パジェット病に関して、センチネルリンパ節生検における臨床的意義について世界に先駆けて検討中であるであり、陽性症例もあり有用性が示唆されている。皮膚悪性腫瘍はリンパ腫を除き手術治療が原則であるため、積極的に手術治療を行っている。進行期症例に対しては化学療法・放射線療法などは患者と家族に十分な説明を行い、インフォームドコンセントを取得したうえで施行している。当科では最新の免疫療法を手掛け、効果をあげている。また病状進行や転移などの告知に伴う、がん患者の精神的なケアについても十分に配慮し、がん性疼痛に対しても積極的に鎮痛薬（麻薬を含めて）を使用し、疼痛をほぼ感じることなく日常生活が過ごせるよう緩和ケアを病院の緩和ケアチームの協力のもとに行っている。

当科は日本皮膚悪性腫瘍学会、日本皮膚外科学会の悪性黒色腫グループメンバーになっており、学会へ当科で経験した全症例を登録している。

IV. 神経線維腫症

神経線維腫症外来は本邦で最も患者が多い外来であり、全国より患者が紹介されるため診断のみでなく長期の観察に加え、患者の QOL 向上を目指して積極的に皮膚腫瘍の切除を外来、入院で行っている。神経線維腫症 1 型（レックリングハウゼン氏病）に合併した悪性末梢神経鞘腫瘍（MPNST）は lifetime risk が 10% に達すると言われ極めて予後不良であるが、その epigenetic な異常に関する知見は限られている。MPNST において、がん精巢抗原遺伝子の脱メチル化、および、CpG アイランド低メチル化形質の存在を明らかにすることを目的とし、MPNST 7 検体において、がん精巢抗原遺伝子 9 個（MAGEA1, MAGEA2, MAGEA3, MAGEA6, MAGEB2, MAGEC1, MAGEC2, CTAG1B, SSX4）の 5' 上流に存在する CpG アイランドのメチル化状態を解析した。その結果、脱メチル化が全くみられない症例がある一方で、すべての遺伝子で脱メチル化がみられる症例もあった。MPNST において、がん精巢抗原遺伝子が脱メチル化すること、および、CpG アイランド低メチル化形質が存在することが示唆された。今後、MPNST における CpG アイランド低メチル化形質が臨床病態に及ぼす影響について探究する必要がある。MPNST の腫瘍株を用いて、インターフェロン β が MPNST に効果を示すことも報告した。

V. ヘルペスウイルス感染症

1. 帯状疱疹・PHN・ヘルペス外来

単純ヘルペスに関しては、性器ヘルペスおよび難治性口唇ヘルペス、顔面ヘルペス患者などの治療を行っている。性器ヘルペスはペーチェット病、その他の潰瘍、水疱を形成する病変との鑑別を要する。我々の外来では単純性ヘルペスウイルス1型および2型、水痘-帯状疱疹ウイルス特異的抗原に対する蛍光抗体法で、その部位でのウイルスの存在を確認、迅速診断を行っている。また、イムノクロマト法を用いた簡易キットにより、さらに迅速な単純ヘルペスの診断が可能になった。再発型性器ヘルペス患者や性器ヘルペス初感染の患者では、このような抗原検出の他に、単純性ヘルペス1型および2型糖タンパクGに対する血清抗体をELISA法で測定することでウイルスの型判定を行い（保険適応外）、その後の再発頻度などの説明に役立てている。この様に他の施設では施行が困難な迅速診断を行い、再発を繰り返す再発型性器ヘルペス患者にはバラシクロビルを用いた再発抑制療法を中心に行っている。他にも patient initiated therapy（患者が開始する治療）や、episodic therapy（発症時治療）など、患者のニーズにあわせた治療を行い、QOLを高めることを目標としている。

帯状疱疹に関しては、皮疹が出現初期から帯状疱疹後神経痛（PHN）を発症した患者を含め総括的に治療を行っている。急性期病、PHNのみられる患者ではステロイド、三環系抗うつ薬、オピオイド、プレガバリンを含めた抗痙攣薬、トラマドール塩酸塩／アセトアミノフェン配合錠、トラマドールなどを積極的に用い疼痛を図る。さらに、疼痛の評価に関して従来用いられてきたVAS（visual analogue scale）のみでなく、知覚・痛覚定量分析装置（Pain Vision PS-2100TM）を用いて客観的な評価を行い、薬剤変更、投与の目安とすることを試みている。

VI. ヒト乳頭腫ウイルス感染症

尋常性疣贅では、一般的な液体窒素凍結療法、削り術に加え、難治例（紹介が多い）で活性型ビタミンD3軟膏密封療法、50%サリチル酸絆創膏貼付療法、グルタルアルデヒド塗布療法、モノクロル酢酸塗布などを組み合わせ、治療効果をあげている。さらに難治なものに対してはSADBEによる接触免疫療法、色素レーザーやphotodynamic therapyを施行している。また、尖圭コンジローマに対しては、液体窒素凍結療法、炭酸ガスレーザーなどに加え、発生場所によってはイミキモドクリームを用いてい

る。尖圭コンジローマを含め、ヒト乳頭腫ウイルス感染が疑われる症例ではハイリスクのヒト乳頭腫ウイルスをサーベイするためにPCR法で型判定もを行っている。

VII. パッチテスト

各種の薬疹、接触皮膚炎、口腔粘膜の扁平苔癬などの原因薬剤、物質のパッチテストを積極的に施行している。

VIII. レーザー治療

Qスイッチルビーレーザーによる治療では、太田母斑、老人性色素斑の成績が良く、老人性色素斑ではほとんど1回の照射で改善した。扁平母斑に対しては、再発する例や色調が改善されない例が多く、治療成績は良くなかった。パルス色素レーザーによる治療では、単純性血管腫や莓状血管腫、毛細血管拡張症などに照射し、有効であった。また、疣贅外来と連携して、難治の尋常性疣贅に対して色素レーザーを照射し、効果がみられたものもあった。ウルトラパルス炭酸ガスレーザーは短時間に表在性隆起性病変を均一な深さで蒸散でき、脂漏性角化症、汗管腫、眼瞼黄色腫などに対し高い治療効果が得られた。

IX. スキンケア外来

乾癬、白斑、皮膚T細胞性リンパ腫、痒疹等に対してナローバンドUVB照射装置、308nmエキシマライト照射装置を併用して治療を行い、高い治療効果を得ている。

最近では、様々な医薬部外品が巷にでまわり、そして、情報の氾濫により、結果誤ったスキンケアを行い、その結果、皮膚疾患が発生することも少なくない。また、あざ、湿疹、にきびといったスキントラブルのあり、QOLが低下し、治療の妨げになる例もみられる。そのような症例に対し、有名化粧品メーカーの専門美容技術指導員が個人指導する「セラピーメーカーキャップ」、「スキンケアレッスン」、「アクネケア」により、治療上の様々な問題点を見出し、改善することによって治療の助けになっている。

「点検・評価」

乾癬外来では各治療法のRisk/Benefit Ratioを考慮し、患者のQOLを高める治療計画確立、治療アドヒアランスの向上を目指している。また、全身照射型のnarrow-band UVB, 308nm excimer lampを積極的に稼働させている。また、東京の患者友の

会と共同して乾癬患者を対象にした学習懇談会、市民公開講座を定期的に行う予定である。また、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的に行っている。

神経線維腫症に関しては当科における専門外来の存在が広く知られているためか、これまで以上に多くの患者が紹介受診し、遺伝相談も積極的に行っている。臨床・基礎研究ではびまん性神経線維腫から発症すると考えられる悪性末梢神経鞘腫瘍についての早期診断に加え、遺伝子異常の検索を続けている。また、患者 QOL 向上を目指して積極的に神経線維腫の手術にも取り組んでいる。

ヘルペスウイルスの基礎研究では高感度の迅速診断法の有用性を証明しえた。ヘルペスウイルス感染症の早期診断、型分類も行っている。また、性器ヘルペスの抑制療法、帯状疱疹後神経痛の治療に関しても積極的に取り組んでいる。

ヒト乳頭腫ウイルス感染症は紹介難治例も多く、通常の治療に加え、特殊療法も重症度に応じて、行っている。尖圭コンジローマの治療も積極的に行っている。

パッチテスト専門外来では食物によるアナフィラキシーの原因追及、接触皮膚炎、薬疹などの原因物質の同定を行っている。

アトピー性皮膚炎の臨床面では EBM に基づく治療のみならず、患者の QOL の障害の程度を考慮した日常診療を行っている。中でもスキンケアの重要性を患者に自覚してもらうため、スキンケアの指導に努めている。心身医学的配慮が必要な患者にはメンタルケア外来を設けて対応している。本学独自の患者の会を中心に息の長い活動も行っている。

皮膚悪性腫瘍は、手術症例は相変わらず多く、悪性黒色腫、乳房外 Paget 病について国内でも屈指の経験例を有する。センチネルリンパ節生検も積極的に行っている。進行例における支持療法も精力的に行っている。

レーザー治療外来では、数種類のレーザー機器を用いて多数の症例を治療している。蓄積されたデータをもとに適切な時期に適切な機器で治療を行えるようになっている。

膠原病は長期経過の中で様々な合併症を生じる疾患群であるため、今後も他科との連携を保ちつつ、継続して治療を行うことが重要であると考えられる。

全体として、様々な難治性皮膚疾患に関する広範な臨床研究に加え、臨床に還元できる基礎的研究が

進行していることが特徴である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Saeki H¹⁾, Ito T¹⁾, Hayashi M¹⁾, Fukuchi O¹⁾, Umezawa Y¹⁾, Nobeyama Y¹⁾ (¹National Center for Global Health and Medicine), Teruya K, Nakagawa H. Successful treatment of ustekinumab in a severe psoriasis patient with human immunodeficiency virus infection. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2015; 29(8) : 1653-5. Epub 2014 Apr 23.
- 2) Umezawa Y, Nobeyama Y, Hayashi M, Fukuchi O, Ito T, Saeki H, Nakagawa H. Drug survival rates in patients with psoriasis after treatment with biologics. *J Dermatol* 2013; 40(12) : 1008-13.
- 3) Omori Y, Tanito K, Ito K, Itoh M, Saeki H, Nakagawa H. A pediatric case of multiple palisaded encapsulated neuromas of the palms and soles. *Pediatr Dermatol* 2014; 31(4) : 107-9.
- 4) Omori Y, Saeki H, Ito K, Matsuzaki H, Tokita M, Itoh M, Tanito K, Ishiji T, Fukunaga M, Nakagawa H. Solitary fibrous tumour of the scalp. *Clin Exp Dermatol* 2014; 39(4) : 539-41.
- 5) Umezawa Y, Fukuchi O, Ito T, Saeki H, Nakagawa H. Risk of herpes zoster in psoriatic patients undergoing biologic treatment. *J Dermatol* 2014; 41(2) : 168-70.
- 6) Umezawa Y, Saeki H, Nakagawa H. Some clinical factors affecting quality of the response to ustekinumab for psoriasis. *J Dermatol* 2014; 41(8) : 690-6.
- 7) Yanaba K, Umezawa Y, Ito T, Hayashi M, Kikuchi S, Fukuchi O, Saeki H (Nippon Medical School), Nakagawa H. Impact of obesity on the efficacy of ustekinumab in Japanese patients with psoriasis: a retrospective cohort study of 111 patients. *Arch Dermatol Res* 2014; 306(10) : 921-5.
- 8) Fukasawa M, Ishiui Y, Ito K, Nakagawa H. A female case of benign symmetric lipomatosis associated with alcoholism. *Eur J Dermatol* 2014; 24(2) : 258-9.
- 9) Hayashi M, Nakayama T, Hirota T¹⁾, Saeki H (Nippon Medical School), Nobeyama Y, Ito T, Umezawa Y, Fukuchi O, Yanaba K, Kikuchi S, Nakagawa H, Tsunemi Y (Tokyo Women's Medical Univ), Shibata S²⁾, Sato S²⁾ (²Univ of Tokyo), Tada Y (Teikyo Univ), Miyatake A (Miyatake Asthma Clinic), Fujieda S (Univ of Fukui), Tamari M¹⁾ (¹RIKEN). Novel IL36RN gene mutation revealed by analysis of 8 Japanese patients with generalized pustular psoriasis. *J*

- Dermatol Sci 2014; 76(3) : 267-9.
- 10) Nobeyama Y, Matsuzaki H, Nakagawa H. Annular erythema of Sjögren's syndrome treated successfully with low-dose cyclosporine. J Dermatol 2014; 41(5) : 463-4.
 - 11) Shirai A, Saeki H, Matsuzaki H, Ito K, Nakagawa H. Multiple clear cell acanthoma associated with multiple Bowen's disease. Int J Dermatol 2014; 53(8) : e386-8.
 - 12) Nobeyama Y, Nakagawa H. A case of Miescher's type of acral melanocytic nevus. J Dermatol 2014; 41(6) : 567-8.
 - 13) Ishiji T, Matsumoto K, Kawase M, Nakagawa H. Spontaneous regression of Merkel cell carcinoma developed in a patient with epidermodysplasia verruciformis. J Dermatol 2014; 41(8) : 759-60.
 - 14) Nobeyama Y, Nakagawa H. Case of leukemia cutis showing asymmetrical linear distribution suggestive of Koebner's phenomenon. J Dermatol 2014; 41(8) : 768-9.
 - 15) Tanito K, Ota A, Kamide R, Nakagawa H, Niimura M. Clinical features of 58 Japanese patients with mosaic neurofibromatosis 1. J Dermatol 2014; 41(8) : 724-8.
 - 16) Omori Y, Tanito K, Ito K, Ishiji T, Saeki H, Nakagawa H, Saeki Y (Sanno Hosp). Bowen's carcinoma of the penis with sebaceous differentiation associated with human papillomavirus type 16. Int J Dermatol 2014; 53(11) : e531-2.
 - 17) Nobeyama Y, Nakagawa H. Subcutaneous Sweet's syndrome and neutrophilic panniculitis. J Dermatol 2014; 41(9) : 861-2.
 - 18) Hayashi M, Hirota T¹⁾, Saeki H, Nakagawa H, Ishiujy Y, Matsuzaki H, Tsunemi Y (Tokyo Women's Medical Univ), Kato T²⁾, Shibata S²⁾, Sugaya M²⁾, Sato S²⁾ (²Univ of Tokyo), Tada Y (Teikyo Univ), Doi S (Osaka Prefectural Medical Center for Respiratory and Allergic Diseases), Miyatake A (Miyatake Asthma Clinic), Ebe K (Takao Hosp), Noguchi E (Univ of Tsukuba), Ebihara T³⁾, Amagai M³⁾ (³Keio Univ), Esaki H⁴⁾, Takeuchi S⁴⁾, Furue M⁴⁾ (⁴Kyushu Univ), Tamari M¹⁾ (¹RIKEN). Genetic polymorphism in the TRAF3IP2 gene is associated with psoriasis vulgaris in a Japanese population. J Dermatol Sci 2014; 73(3) : 264-5.
 - 19) Hayashi M, Umezawa Y, Fukuchi O, Ito T, Saeki H, Nakagawa H. Efficacy and safety of ustekinumab treatment in elderly patients with psoriasis. J Dermatol 2014; 41(11) : 974-80.
 - 20) 東福有佳里, 延山嘉真, 福地 修, 中川秀己. 【小児の皮膚病・腫瘍, 母斑】臨床例 足底にも皮疹がみられた色素性蕁麻疹. 皮膚診療 2014; 36(11) : 1029-32.
 - 21) 大森康高, 延山嘉真, 松尾光馬, 伊東慶悟, 谷戸克己, 石地尚興, 太田有史, 中川秀己. NF1に伴う血管病変 動脈瘤を合併した4例. 日レックリングハウゼン病会誌 2014; 5(1) : 32-4.
 - 22) 佐藤純子, 渡邊淑識, 近藤佐知子, 木藤悠子, 泉祐子, 高木奈緒, 上出良一. 皮下深部解離性血腫の4例. 臨皮 2015; 69(2) : 149-54.
 - 23) 梅澤慶紀, 江藤隆史, 衛藤 光, 上出良一, 中川秀己, NPO 法人東京乾癬の会. 【最近のトピックス 2015 Clinical Dermatology 2015】皮膚科医のための臨床トピックス「東京乾癬の会」における乾癬患者アンケート結果にみる患者の思い. 臨皮 2015; 69(5) : 171-5.
 - 24) 木藤悠子, 近藤佐知子, 泉 祐子, 高木奈緒, 片山宏賢, 河野 緑, 上出良一. Pantone-Valentine leukocidin 産生黄色ブドウ球菌による皮膚感染症の5例. 臨皮 2014; 68(10) : 796-800.
 - 25) 吉方佑美恵, 石氏陽三, 松尾光馬, 穂苺厚史, 高木一郎, 銭谷幹男, 田尻久雄, 中川秀己. テラプレビル(テラビック)を併せた3剤併用療法によるC型肝炎治療での皮膚症状の発現について. 臨皮 2014; 68(7) : 550-4.
- ## II. 総 説
- 1) 梅澤慶紀, 中川秀己. 生物製剤に頼らない! 乾癬治療の職人技 シクロスポリン療法のポイント. 日皮会誌 2014; 124(13) : 2934-6.
 - 2) 尾上智彦, 本田まりこ. 【初歩から学べる皮膚科検査の実際】梅毒の検査. Derma. 2014; 216 : 95-102.
 - 3) 築場広一, 中川秀己. 【続 他科医に聞きたいちょっとしたこと】抗核抗体が高い乾癬患者にBio製剤を導入する際の留意点. クリニシアン 2014; 61(12) : 1193-5.
 - 4) 梅澤慶紀, 中川秀己. 小児の乾癬の治療. 日小児会誌 2014; 33(3) : 205-11.
 - 5) 梅澤慶紀, 中川秀己. 【最近のトピックス 2014 Clinical Dermatology 2014】皮膚疾患治療のポイント 高齢者での乾癬治療. 臨皮 2014; 68(5) : 99-103.
 - 6) 石氏陽三, 中川秀己. 消化器疾患に対する分子標的薬による皮膚障害とその対策法. 臨消内科 2014; 29(10) : 1415-8.
 - 7) 尾上智彦. 【よくわかる検査と診断】(第4章) 女性医学分野 梅毒. 産と婦 2015; 82(Suppl.) : 382-5.
- ## III. 学会発表
- 1) 渡邊淑識, 石氏陽三, 梅澤慶紀, 石地尚興, 中川秀

- 己. Painful bruising syndrome と考えられた 1 例. 第 78 回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 青森, 10 月.
- 2) 松浦裕貴子, 伊東慶悟, 太田有史, 中川秀己, 新村真人. 表皮母斑症候群 (phacomatosis pigmentokeratotic) の 1 例. 第 66 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 高松, 11 月.
- 3) 築場広一, 梅澤慶紀, 林 光葉, 菊池荘太, 福地 修, 伊藤寿啓, 佐伯秀久, 中川秀己. 当科乾癬患者 111 例に対するウステキスマブの治療経験 - 有効性と肥満との関連性 -. 第 29 回日本乾癬学会学術大会. 高知, 9 月.
- 4) 森下未奈子, 松崎大幸, 菊池荘太, 伊藤宗成, 谷戸克己, 中川秀己, 小島 淳, 河石 真, 桑野和善. Thymoma-associated cutaneous graft-versus-host like disease の 1 例. 第 78 回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 2 月.
- 5) 風間真理子, 榊原玲子, 楠原 優, 菊池荘太, 伊藤宗成, 伊東慶悟, 谷戸克己, 石地尚興, 中川秀己, 大場亮一郎. 嚢腫壁から生じた cystic squamous cell carcinoma の 1 例. 第 78 回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 2 月.
- 6) 東福有佳里, 伊東慶悟, 福地 修, 中川秀己. Blaschko 線に沿った Ashy dermatosis の 1 例. 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 7) 村山 梓, 山口貴子, 清水 香, 牧 智子, 梶井崇行, 吉田寿斗志, 福地 修, 中川克己. 当施設で 10 年間に経験したメルケル細胞癌の 7 例. 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 大阪, 10 月.
- 8) 高木奈緒, 大森康高, 佐藤純子, 泉 祐子, 上出良一, 山口祐子, 薄井紀子. 節外性 NK/T 細胞リンパ腫の 1 例. 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 9) 松崎大幸, 佐伯秀久, 伊東慶悟, 延山嘉真, 中川秀己. 色素性母斑との鑑別を要した pigmented clear cell acanthoma の 1 例. 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 10) 牧 智子, 村山 梓, 森下未奈子, 東福有佳里, 梶井崇行, 吉田寿斗志, 福地 修, 木下智樹. 右腋窩に生じた副乳癌の 1 例. 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 11) Itoh M, Kawagoe S, Nakagawa H. Generation of induced Pluripotent Stem Cells (iPSCs) from Lymphedema Distichiasis Syndrome (LDS) for establishment of human disease model. 44th Annual Meeting of the European Society for Dermatological Research. Copenhagen, Sept.
- 12) 泉 祐子, 高木奈緒, 上出良一, 伊藤宗成, 伊東慶悟, 延山嘉真, 谷戸克己, 中川秀己. ボリノスタットを投与した mycosis fungoides large cell transformation の 1 例. 第 77 回日本皮膚科学会東京支部総会. 東京, 2 月. [日皮会誌 2014; 124(9): 1778]
- 13) 井ノ口早苗, 石地尚興, 林 光葉, 中川秀己. 尖圭コンジローマとして治療されていた亀頭部の扁平上皮癌の 1 例. 第 78 回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 青森, 10 月.
- 14) 宇野 優, 延山嘉真, 中川秀己. 日本人における基底細胞癌のダーモスコピー所見の解析. 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 大阪, 10 月.
- 15) 鈴木 皓, 榊原玲子, 森下未奈子, 楠原 優, 菊池荘太, 伊藤宗成, 延山嘉真, 谷戸克己, 中川秀己. 左大腿に生じた多形型脂肪肉腫の 1 例. 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 大阪, 10 月.
- 16) 榊原玲子, 伊藤宗成, 太田有史, 中川秀己. 男児に見られた色素失調症の 1 例. 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 大阪, 10 月.
- 17) 中川秀己, Elewski BE (Univ of Alabama), Lebowohl M (Mount Sinai Hosp), Karpov A¹⁾, Papavassilis C¹⁾ (¹Novartis Pharma AG). 尋常性乾癬におけるセクスマブの無作為化プラセボ対照多施設国際共同第Ⅲ相臨床試験 (ERASURE). 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 18) 延山嘉真, 松尾光馬, 中川秀己. 非対称性の分布を呈した stucco keratosis の 1 例. 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 19) 梅澤慶紀, 林 光葉, 築場広一, 安部正敏, 福地 修, 伊藤寿啓, 佐伯秀久, 中川秀己. 乾癬の病型, 重症度, BMI に基づく生物学的製剤治療アルゴリズムの作成. 第 113 回日本皮膚科学会総会. 京都, 5 月.
- 20) 千葉美紀, 尾上智彦, 太田有史, 市川晶博, 中川秀己. 皮膚腺病の 1 例. 第 66 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 高松, 11 月.